

授業科目名	プレゼミ I	必修	開講年次	1	単位数	2
科目区分	専門科目					
サブタイトル	法学部生としての基礎トレーニング	担当者	法学専門科目担当専任教員			
講義概要	<p>【概要】</p> <p>この授業は、これから法学部生として学んでいくために必要な基礎的素養を身につけるための演習です。他の講義を受講中に生じた疑問の解消や、各自が抱える問題（例えば「勉強がはかどらない」など）の解決のためにも、この演習を活用して下さい。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①法学／法律学に興味をもつこと、②学習に必要な基礎的素養を身につけること、③疑問点・問題点を放置しない習慣をつけることを、最低限の目標として掲げます。これらの目標に到達することは、法学／法律学と本格的向き合う準備することと言えるでしょう。</p>					
履修条件	特になし。ただし、学期始めのガイダンス時に所属クラスが指定されます。					
教科書・参考書	<p>【教科書】 六法〔出版社は問わないが平成23年（2011年）版〕</p> <p>【参考書】</p> <p>必要に応じて授業中に指示・紹介しますが、他の必修法学科目（憲法概論・民法概論など）の教科書を繰り返し読むことも大切です。</p>					
授業内容	<p>【授業を通じて学ぶ事柄の具体例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 法律学系科目における授業の受け方とノートのとり方・作り方 ・ 法律学系科目の予習・復習の方法 ・ 六法の使い方／判例の読み方 ・ 法律学系科目を学ぶに際しての図書館の活用法 ・ 法律学系科目におけるレポート作成 ・ 法律学系科目におけるプレゼンテーション ・ 法律学系科目における試験の準備や答案の作成方法について <p>【授業の形式と素材】</p> <p>演習科目ですから、担当者からの一方的な説明だけではなく、受講生の皆さんにも「わからないことは質問する」「自分の意見を述べる」といった能動的で積極的な「動き」が求められます。この演習の素材となるテーマは各クラス担当者がピックアップしますが、「新聞記事から法律学の基礎に触れる」「映画を通じて法学を身近に感じる」といった方法もあり得ますので、受講生の皆さんも希望や意見があれば積極的に担当者に伝えて下さい。</p>					
評価方法	授業への参加姿勢、課題やレポートの提出状況、小テストの結果など、受講生の「動き」を担当者が評価します。演習科目という特性上、定期試験は実施しません。					
評価基準	授業に出席するのみならず積極的に参加し、課題を達成するとともに、学習した内容をよく理解した者には「A」、不足がある場合にはその程度により「B」または「C」とし、出席、参加度または達成度が著しく低い者はその程度に応じて「D」または「E」とする。					
その他	遅刻や欠席は本人にとって非常に不利となります。時間厳守で、積極的・主体的に授業に参加して下さい。疑問や問題を抱えている場合は、そのことを恥ずかしくせずにさらけ出すことが大切です。					